

ひな

Vol. **102** 2016.5 (隔月刊)

社会福祉法人 一心福祉会

<https://www.isshinfukushikai.or.jp/>



場 所：大宜味村こいのぼり掲揚式
撮影者：宮城 武尚

障害者支援施設 えすの里

施設長就任挨拶

新城 靖 史 (塩屋出身)

村内においてはオクラレルカが見ごろとなってまいりました。

さて、私は平成二十八年四月一日付で、障害者支援施設えすの里の三代目の施設長として就任しました。これまでの歴代施設長の後を受けての施設長として、大変プレッシャーを感じておりますが、プレッシャーを前向きに捉え法人並びに施設の為に一生懸命頑張りたいと思います。

振り返りますと、私が一心福祉会に採用されたのは平成五年十月一日で、早二十二年半が経ちました。この間社会福祉は大きく変わり、行政主体から利用者主体へ、個々のニーズにあったサービスをどう提供又は支援するかの内容に変わってきました。施設で働く私たちは、利用者が施設で楽しく過ごせるような取り組みと同時に、家族にも喜んで頂けるような取り組みが今後必要だと感じております。また、この四月か



えすの里正面にて

らは社会福祉法の改正に伴い、法人の透明性の確保や地域と一体となった取り組みが義務付けとなり、課題も山積する中ではありますが、地域と共に手を取り合って頑張っていきたいと思えます。

それから、一心福祉会の基本理念である「福祉で村興し」は、先輩達が苦勞して築いてこられました。この立派な一心福祉会を受け継ぎ、さらには発展させていくことが私たちの使命だと思っています。微力ではありますが、歴代施設長同様ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

法人新人職員研修会

～フレッシュな顔ぶれが一同に～

一心福祉会では、毎年度四月に新人職員研修会を開催しています。

昨年四月以降に採用された職員と今年度新たに採用された職員の十四名を対象として行いました。

始めに法人事務局長より、就業規則の説明があり、次に事務局次長より、新任職員の心得としての講話があり、その後恒例となっている各事業所の先輩職員から、新人時代から現在に至るまでの経緯やその思い出、利用者と接す

る上で、心がけている事などの発表があり、身近な先輩からの言葉に刺激を受けた様子でした。

最後に、新人職員の代表として三名の方に抱負を述べて頂きました。入職して間もなく緊張の連続で大変な時期の中とは思いますが、発表者からは「先輩のように一人前の福祉職員として成長するためがんばります。」との言葉があり、いち先輩職員として後輩達を頼もしく感じた研修会となりました。



一心福祉会 新任職員研修会

先輩職員の体験発表の1コマ

決意新たに 辞令交付式

四月一日(金)平成二十八年一度一心福祉会辞令交付式を執り行いました。

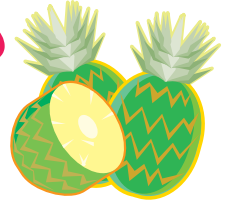
昇任の辞令を受けた方が六名・本採用者が七名おり、理事長より辞令の交付を受けました。

また、その後に開催された懇親会でも、本採用者を代表しての決意表明や、新人職員の紹介などがあり、決意新たに新年度のスタートを切りました。

リレー連載



小規模多機能ホーム あがり



ドキュメント 一心福祉会 ⑱



地域の方々との交流

東村待望の施設

池原 浩幸

平成二十四年三月一日、「小規模多機能ホームあがり」を東村慶佐次に地域密着型施設として開所。

地域密着型施設とは、事業所が所在する市町村の方が利用できる施設のこと。特に福祉サービスの資源の少ない東村においては在宅サービスと入所サービスの中間的役割を持つ待望の施設ができた。

くの方々に喜んで頂きました。

これまでのサービスでは独居の方が「住み慣れた地域で安心して暮らしたい」と願う想いに対しその生活を支えるサービスがなく子供たちが住む近くの施設や他の地域へ移転するケースもありました。

施設整備においては東村当局の福祉に対する理解と協力

のもと整備をしていただきました。

ソフト面においても村福祉課や包括支援センター各学区長・民生委員の適切な情報や協力のおかげで開所することができました。住み慣れた地域で、暮らすことを希望されている方々へ「通い」を中心に「訪問」「泊り」のサービスを提供することで、ご本人やご家族の生活スタイルに合ったサービスを選択し安心して暮らす事ができる事業所としてスタート。

開所前は、多くの村民から小規模多機能施設とはどのような福祉施設なのか、誰でも通ったり、泊まる事は、できるのか等、様々な質問がありました。

各字、老人会や婦人会の会合に出向き説明することで徐々に理解を得ることができました。特に所在する地域においては、住民に丁寧に説明し理解をいただき、その事もありこの地域の方々が多くサービスを利用してもらいました。

開所当時、登録者数は十一名程でしたが徐々に小規模多機能施設のサービスが理解

され、一年後には目標の二十三名まで利用者が増えました。

特に力をいれた事は、世代間交流で近隣の小学校や中学校の福祉体験の受け入れ、名桜大看護学科の実習生受け入れ、各字老人会、婦人会の交流など地域密着型ならではのふれあいが出来「あがり」を利用されている方々に喜んでいただきました。

もう一つ、雇用においても東村出身者を多く採用し一心福祉会の職員として地域行事への参加や協力をするよう声掛けし地域に根差した活動をおこないました。

しかし、開所から四年、利用者のADLの低下やご家族を取り巻く環境の変化により入所系のサービスへとニーズが変わってきているのも事実です。今後は、地域のニーズを把握し必要なサービスが提供できるよう前向きに取り組んでいきたいと思っております。



デイサービス

花の便りが届く今日この頃、デイサービスでは、四月十九日・二十日・二十一日にお楽しみイベントである、喜如嘉ターブルクへオクラレルカ見物に行つて来ました。天気にも恵まれ、到着とともに「立派さー、とても綺麗だ」と笑顔や話し声が聞こえ、満開のオクラレルカに魅了され、とても喜ばれていました。



春の陽気にさそわれて

大保出身の真喜志喜代子さんより

「天気は曇り晴れ私の心も・だけどデイサービスの入り口に生けたオクラレルカは私の心も明るくするよ」

「紫色一面咲き誇る綺麗なオクラレルカ彼氏が居たら二人で仲良く眺めもつと綺麗だったはずね・・・」

と詩を書く姿があり、みなさん関心された様子でした。

また、喜如嘉出身の山城マツ子さんより「デイサービスのみなさんにも花を楽しんでもらいたい」とオクラレルカの花を頂き、デイサービスカウンターの前にて綺麗に生けられ華やかな雰囲気のみなさんの表情も穏やかに感じられます。

久しぶりのドライブに終始笑顔が絶えず、とても満喫された様子でした。

宮城 悠



久しぶりのトリムマラソン

えすの里

去年も雨天の為参加が出来なかつた塩屋湾一周トリムマラソン。

今年も天気予報は「雨」半ば諦めながら、てるてる坊主を作り当日を迎えました。

当日の天気は見事に予想が外れ快晴！絶好のマラソン日和となりました。ウォーキングを日課に取り入れている成果もあり多くの利用者さんが前回のタイムより三分程早いタイムで完走されています。



マイペースで全員完走しました

利用者さん一人ひとりが地域の声援を受けながら塩屋湾を走って歩いて、気持ちいい汗を流しました。

アロママッサージュ

やんばるの家

三月三十一日(木)午後二時三十分から談話ホールにて施設看護師大城優子さん指導の下、アロママッサージュを実施しました。利用者の両手をアロマオイルでマッサージュをする事で不安感が取れてよく眠れるとの事。対面で会話をしながら触れ合う機会が出来ました。



大城看護師によるアロママッサージュ

み継続して行きたいと思いません。

今後も余暇支援の中で取組



家族のみなさんへシーツの替え方を指導

四月十日(日)午前九時より談話ホールで新施設長の挨拶をはじめ家族会より車椅子三台の寄贈がありました。その後、シーツの替え方の説明を行い、各部屋の大掃除をお願いしました。四十家族、八十三名の参加がありました。紙面をもちましてお礼申し上げます。

やんばるの家

家族会 大掃除



Before



荒れ放題の畑が

After



こんなに綺麗になりました。

四月三日(日)小規模多機能ホームあがりにて施設周辺の大掃除を行いました。あがりでは、夏に向けて夏野菜収穫の為に畑作りの

小規模 あがり

畑づくりの後は3時ユクイ (休憩)



2人で仲良くおやつ作り

作業を男子職員で約二時間行い、畑には、キュウリ、ゴーヤー、赤ウリの苗を植えました。畑作業の後は、吉本ヨシさん(川田出身)奥本ヨシ子さん(川田出身)の愛情たっぷりのおやつを利用者、職員でいただきました。作業中の職員を見ていた二人から「にいさん達にまーさむん(おいしい食べ物)あげよう」と二人が三時ユクイのおやつを作ってくれました。

それから、旧喜如嘉小学校校門横のコスモス畑も多彩の色で見事でした。そして、近隣の田嘉里区ではアマリリスの花が生き活きと大輪の花を咲かせていました。見物者の皆さんは「目の保養にもなったさー」と、楽しそうに語っていました。

小規模 いっしん

オクラレルカ 見学



小規模多機能ホームいっしんで、四月は花見見物に出かけることにしました。晴れの天気を見計らい、喜如嘉区のターブクのオクラレルカを数回、車に分乗して見物しました。地域の利用者さんもいて、一面を紫色で装い「いつ見てもきれい」と話していました。



色とりどりのコスモス畑



天気に恵まれ気分は上々

上地京子（大保区）八十五歳
デイサービス利用者



受け入れを頑張っていたころ

主人の父親（上地安牛）が昭和十年にペルーに移民とし



人生はたった一度と言われますが、その人の歩んだ人生は唯一のもの。その貴重な体験を「私のヒストリー」（ライフヒストリー）と題してご紹介する企画です。

南米（ペルー） 子弟の受け入れの思い出



娘の振り袖で村の成人式に参加した留学生

て移り住みました。その後子供たちを呼び寄せて父親は七年間働き帰国しました。子供たちは残り結婚し家庭を持ちました。父親が帰ってきて生まれたのが主人（安廣）です。

私たちが結婚するとペルーから親戚が観光や研修で主人を頼って沖繩に来るようになっていました。まだ電気やガスがきていない頃です。トイレの使い方やお風呂の入り方も違っていてびっくりしました。ペルーは豊かで洗濯機もあつたようですがこちらは無いので子供たちは洗濯の仕方がわからず、私が手洗いでいました。

朝、台所に立ち「今日は何を食べさそうか？」とチムドンドン（心臓がどきどき）し

ました。朝食はパンを食べるといのでトースターが我家にはなかったので友達に借りてきたりしました。ソーメン汁はおいしいと言っておかわりして食べてくれました。帰国する時のお土産は七月（お盆）正月にお供えに頂いた食品を持たせました。日本食はあちらでは貴重だったからです。こちらはまだまだあまり豊かではない時代でしたが、精いっぱいもてなしをしました。

今年も世界ウチナンチュウ大会に来るとのことで楽しみに待っています。

新年度を迎えて

デイサービス

新年度を迎え法人内の人事異動により、デイサービスでも四人の職員が入れ替わりました。四月一日より一週間を全職員により日々入れ替わる利用者には、早く顔と名前を覚えてもらう為、自己紹介を行いました。

それぞれの出身地、家族構成、職歴等を約十分程度ではありましたが皆さん、大変興味深そうに聞き入っていました。新職員は平良真市課長、宮

仕事のやりがいを感じる

えすの里



自分で稼いだ工賃を手に大満足♪

就労センターでは毎月、工賃支給日を設けて直接利用者さんに工賃袋を手渡し実際に自分で稼いだ工賃を手にとってもらい仕事に対するやりがいを実感し作業をしています。

また四月二十日には、期末賞与も支給され通常よりも沢山のお金を手に取り笑顔が絶えない利用者の皆さん「沢山貰えて嬉しい！今年も一年仕事を頑張る」と多くの利用者



早く名前を憶えて頂ける様頑張ります。

川光枝、比嘉潤治、金城美季の四名です。今年度も職員一同利用者の皆さんに楽しく利用していただけるよう、「笑顔忘れず、気は長く、心は丸く、人は大きく、己は小さく腹を立てない」をモットーにサービスを提供していきたいと思えます。

さんから、喜びの声が上がっています。

平成二十七年度も平均工賃（月）一六、七一一円支給する事ができ毎年、工賃の平均額も増えており、就労センターえすの里の魅力の一つです。利用者さんが作業（仕事）や工賃支給等を通して生きがいや、やりがいを感じながら事業所を利用してもらえる様、今年度も工賃アップに向けて頑張っていきたいと思えます。



ボランティア慰問

一心療護園

一心療護園のOBの方々が、一心療護園のシート交換日(日曜日)に日程を合わせ、第一回は、前年度三月十三日(八人) 第二回は、今年度四月十日(五人) が来園され、シート交換を行って頂きました。OBボランティアの来園に伴い、業務も円滑に行え、又、OBボランティアメンバーのパワーも頂ける為、利用者をはじめ、職員も楽しく、感謝の気持ちでいっぱいです。

三月二十五日に、二十七年
度ボランティアの皆様二十一名を招き、山羊料理、鮮魚姿づくり、手作りオードブルを前に、利用者がその日の為に日頃、練習をしたオペレッタ(赤ずきんちゃん)を感謝を込めて披露する。
ボランティアの皆様、利用者、職員がカラオケを楽しみ、親睦を深めました。
ボランティア感謝の集いは四回目となりますが、来園される事に『感謝』の思いがふれます。忙しい中、来園され利用者はじめ職員も元気を頂いています。今後も宜しくお願いします。



皆さんが来るのを楽しみにしています。

また来るからね

小規模 あがり

四月十九日(火)
小規模多機能ホームあがりに平良区のほがらか会十五名が訪れました。

あがりでは毎年、二回ほどのほがらか会との交流があり歌やウンタクをして地域交流に取り組んでいます。

利用者の中には平良区出身の利用者も多く、久しぶりに会う友達との交流をとても楽しみにしています。

「また来るからね」と言う言葉が利用者一番の元気な源かもしれませんね。



お礼のあいさつをする吉本ヨシさん



姉 宮城静さん、妹 池原信さん

タイトル「自由の人生」



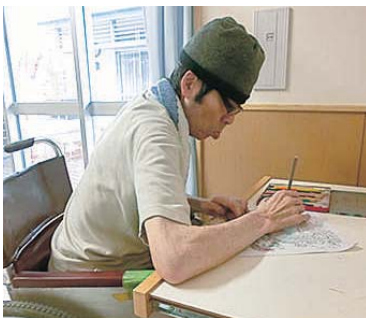
トピックス
2020 東京オリンピック・パラリンピック 公式エンブレム公募

選考作品に負けず劣らず。すばらしいデザイン!!

これからも色々な公募に挑戦していきます。



一心療護園利用者
玉城 政幸さん (58 歳)



手書きした画を職員がパソコン処理しました。

日本バスケットボール協会 公認審判員



来年は全国大会が沖縄で開催されます。

東中学校女子バスケット部の指導にも熱心!!



小規模 あがり介護員
金城 翼さん (32 歳)

介護に関する 困った を共に考えます!

サービスや手続きの相談等受付ます。

介護支援センター やんばる

電話 0980-44-2398

担当: 座喜味・安里

お気軽に
お電話下さい!



今年は寒波の影響を受け 花は少なめです。

えすの里
マンゴー 畑使い



マンゴー担当職員
平良 厳さん
知念真也さん



小さな実がついてます。

撮影日: H28.4月26日